

【静岡県立静岡高等学校】

令和6年度 第3回 学校運営協議会 議事録
(兼学校関係者評価委員会及びコンプライアンス委員会)

日 時 令和7年2月6日(木) 午後2時00分～4時30分
会 場 静岡高等学校 会議室
出席状況 委員8名中7名出席(コンプライアンス委員を含む)

1 授業参観(全日制)

2 開 会

・校長挨拶

今年度取組事業の状況報告と次年度の取組について

(DXハイスクール・行きたい学校づくり)

定時制は、3年後募集停止が決まったが日々の教育活動は変わらず

120年前の卒業生、ジョージ・マサ氏について

3 報告、協議等

(1) 学校経営等について

【全日制の課程】

副校長より学校評価アンケート・学校経営報告書について概要を説明した。

アンケートの結果から、学校生活の満足度が向上しており、行事に関する項目が高い傾向にあることがわかる。一方で、規則正しい生活をしていると答えた生徒が目標よりも低い数値となっている。探究に関しては、外部人材の協力により、充実した活動ができた。ホームページの更新回数が目標を達成できなかったが、掲載写真の許可を取る必要があり、手続きに時間がかかるという事情もある。

教頭より部活動大会等の実績、各部活の社会貢献活動について紹介した。

【定時制の課程】

教頭より学校経営報告書・授業アンケートについて概要を説明した。

体育祭に保護者や卒業生を招いたところ多くの参加があり、保護者と生徒が会話をするきっかけを作ることができた。部活動では、卓球や陸上、バスケットボールが活躍した。

E委員： 焼津の高校生が水産工場を訪問したことで地域の魅力を学べたという感想があった。探究で素朴な足元を見つめなおすような活動もしてほしい。

B委員： ぜひ、静岡高校の探究活動に参加してみたい。探究を通じて進路実績の向上につながっている学校もある。

C委員： 探究に対する先生方の意識も変わってきたのではないか。定時制の探究活動についても聞きたい。

校長： 全日制は、1年生でテーマを作成し、2年生でプレゼンテーションをする形である。個人論文の形なので、地域の方々と関わる部分が少ないのは課題と考えている。今年度は外部の方に多く関わっていただき考えを聞いてもらう機会をもうけたことでよい効果が表れた。定時制は、それぞれが自分の興味のあることを調べて発表をしている。4学年一緒に発表をする機会が良い経験となっている。

A委員： 問いの発表会とDXのゼミに関わらせていただいた。様々な興味に対し質問をしながらアドバイスし、自分の考えをまとめていた。どうしても調べものになってしまうので外に出てという形にはならなかったが、最終成果が楽しみである。

教頭： 定時制では、地域スポーツ振興やK-popなどをテーマに取り組んだ。前任校では、自ら課題を見つけて探究のスパイラルを作るということで取り組んでいた。

C委員： 先輩たちの探究が後輩につながっていくと良い。違う視点で感想等がありましたらお願いします。

F委員： 部活動が自由加入になったということだが、県内のプロチームに育成部門があるのでいろいろな選択肢があるのではないかと考える。定時制は交通事故0ということだが、高校生の自転車マナーについては、車を運転しているとヒヤッとすることがある。定期演奏会の広告を毎年掲載しているが、生徒がわざわざ来社してくれる。本来は郵送でも問題ないため、その時間を有効に活用してほしい。

G委員： 基本的な生活習慣の評価が低い、中学から高校になって課題が増える中で生活習慣が低いのは頑張っているということであり、評価できるのではないか。

D委員： 先生方が丁寧な指導をしていることを市民や中学生にもっと知ってもらえると良いのではないか。良いところをもっと押し出していかないとその他大勢の普通高校の中に埋もれてしまう。静岡高校が静岡高校として生き残るためには、これまでのやり方だけでは続かなくなるのではないか。資質豊かな個人を育てることの積み重ねで、世間をけん引する人材を輩出してきた。地域に貢献し静岡を盛り上げるという意識が根付き、循環が生まれることで静岡高校のさらなる発展につながるのではないか。個人情報取り扱いでホームページに苦慮されているということだが、承諾しない場合は事前に申し出てもらう形にするなど、手続きを工夫することで対応できるのではないか。

A委員： 定時制は、生徒数の少なさもあるが丁寧に指導されていることがわかる。令和10年度に募集停止になってしまうのは残念だが、そういう姿勢を大事にしてほしい。全日制に関しては、これからも静岡高校は東大に何人行くかという学校を目指すのか。生成AIの普及により、単なる知識の蓄積だけでなく、その人自身の価値を高めていくことが求められるのではないか。旧来の方法を守る人がいてもよいが、同時に、より先を見据えた取組ができる人も必要だ。

E委員： 昨年度の「アオハルし放題」では静岡高校の生徒が最優秀を取った。志の高い生徒が育っていることがわかった。

B委員： 東京都では、中学校から私立へ進学する生徒の割合が40%に達している。一方で、都立学校も決して何もしていないわけではなく、OB・OGが活発に活動している学校もある。例えば、「総合的な探究の時間」において地域防災に取り組んだ事例も見られる。また、学習面で自律して学ぶ力を持つ生徒は、発想力においても優れている。個人が深く考え抜いた結果が、地域の発展につながったケースも存在する。

校長： 今年、問いを立てるプロセスに新しい教材を導入し、さらに外部の方を招いた点が新たな取組となった。多様な外部人材の協力を得ることができた。

C委員： 大切なのは、短期的に変えていくことではなく、10年後の姿を見据えながら着実に構築していくことではないか。令和7年度についても、より良い計画を立ててほしい。

(2) 不祥事根絶の取組について

【全日制の課程】

副校長より不祥事根絶取組について概要を説明した。

事例研修と「百問繚乱」での採点・返却について教科ごとに研修を実施した。

【定時制の課程】

教頭より定時制での取組概要について説明した。

C委員： 自動採点システムで、どれくらい効率化を図ることができたか。

A教諭： 体感的には、3分の1である。記述式にも対応でき、集計作業も自動でできる。自宅でできるようになり、持ち帰って仕事をするようになった。

B教諭： iPadで支障なく作業できる。

E委員： 管理職による職員への声掛けという話があったが、「傾聴」が大切である。部下の経験を体験するという姿勢で共感をもって聞くことが大切である。人間関係が良くなると思考の質が良くなって行動の質が良くなって、結果も良くなる。

F委員： 不祥事根絶に関しては、企業でも繰り返し伝えていくしかないと考えている。

校長： 10年後、20年後の静岡高校の在り方を考えていくことの大切さを改めて実感した。貴重な意見を多くいただき、気づきの多い有意義な会となったことに感謝する。

4 閉会・諸連絡

(1) 学校関係者評価について

様式をメールで送るので、提出をお願いします。

(2) 議事録について

後日、内容を確認していただき、ホームページへ掲載する。

(3) 来年度の予定

年度当初までに開催日を決定してお知らせする。